

今こそ熊本・大分支援へー東北の被災地から支援物資が送られる

東日本大震災では、新潟県山古志村や阪神の自治体から、真っ先に支援物資が被災地に届けられ、また、ボランティアの人達が駆けつけました。新潟中越地震や阪神淡路大震災の時、東北から支援やボランティアしたことによるお礼です。

大和ハウスが、東日本の被災地で仮設住宅を建設するために、下請けの協力工務店を募ったところ、真っ先に手を上げたのが、阪神の工務店でした。東日本の被災地では、今も兵庫県や阪神の自治体から、多くの職員が応援に来ていて、復興の仕事に従事しています。

被災地と被災者同士の「絆」、今度は東北の被災地の自治体から、支援物資を積んだ車が、熊本・大分に向かって出発しました。

熊本へ「恩返し」支援続々 飲料水発送、募金箱設置

「最大深度7の「平成28年（2016）熊本地震」が発生したことを受け、福島県内では5月15日、東日本大震災の支援に対する「恩返し」の動きが広がった。

相馬市では15日、市内の防災備蓄倉庫から飲料水のペットボトル（500ml）480本を車に積み込み、熊本県玉名市と山都（やまと）町に発送した。

相馬市には大震災発生直後の2011年4月8日、玉名市から水や粉ミルク、タオルなどの支援物資が届き、同17日には山都町から衣類や洗剤、義捐金などが送られてきたという。両市町は今回の地震で被災し、避難所が開設されている。

作業を見守った相馬市の星光総務部長によると、配送には2日以上かかる見通しのため、毛布や布団ではなく、どんな状況でも必要な飲料水にしたという。「大震災のときの恩返しをしたい。被災状況によってはさらなる支援も検討する」と話した。

東京電力福島第一原発事故で全町非難が続く大熊町は、会津産米10キロや餅、レトルトカレーなどの詰め合わせを贈ることを決めた。同町の担当者は「大震災の時は全国からたくさんの支援をいただいた。熊本県民への恩返しになれば」と話した。送り先は今後決める。」（「福島民報」16年4月16日付け）

県内自治体 物資発送 動き拡大

「避難所で物資不足が続く中、福島県内自治体に飲料水や食料を被災地に送る動きが広がっている。

広野町は18日、住民の避難所となっている熊本市の江南中にペットボトル（500ml入り）の飲料水6千本を送った、町の担当者が避難所となっている複数の施設に直接問い合わせ、送り先を決めた。」（「福島民報」16年4月19日付け）

【檜葉町からも支援物資を積んで】



【熊本へ向けていざ出発】



頑張ろう 九州！ 東北と共に！

